

令和6年度上大久保中学校だより

# 上中だより

## 第6号

令和6年9月27日(金)発行

### 学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

## 「本や新聞から考える・・・知識？情報？」 校長 高久 正行 たかく まさゆき

2学期が始まり、早1か月となりました。体育祭や生徒会役員選挙の行事を終え、9月28日からはさいたま市新人体育大会が開催されます。(陸上競技・硬式テニス・水泳は別日程)また、10月後半には合唱コンクールを控え、学校全体が様々な学校行事を通し、一番大いに活性化している時期となっています。

体育祭では、例年以上に暑い日が続く中で練習を行い、日に日に生徒たちの意識の高まりを感じるとともに、全力で競技に臨み、その姿を心から応援する大変微笑ましい様子を見ることができました。体育祭当日も多くのご来賓並びに保護者の皆様のご参観、ご声援をいただきましたこと、大変感謝申し上げます。

さて、9月18日付朝日新聞の記事に、『本を読まない』6割超」という記事を見つけました。文化庁が発表した2023年度「国語に関する世論調査」では、全国16歳以上を対象にした調査結果によると、1か月に電子書籍を含め何冊の本を読むかという問いに対して62.6%の人が「読まない」と答えたそうです。過去の調査では5割を超えたことはなく、また、読書量についての質問では、69.1%が「減っている」と答えています。減った理由は、スマホやゲーム機など「情報機器で時間が取られる」が43.6%(前回調査36.5%)で最多、過去の調査で多かった「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」との回答は38.9%(前回調査49.4%)にとどまったとのことです。最近読んだ「なぜ働いていると本が読めなくなるのか(三宅香帆著:集英社新書)」の本の中で、「情報=知りたいこと」「知識=ノイズ(他者や歴史や社会の文脈)+知りたいこと」と定義し、昨今の社会情勢の変化に伴い、知識ではなく、インターネット等で自分にとって必要な情報さえ得られればよい風潮になっているのではとの分析がされていました。



第45回体育祭スローガン

今年の全国学力・学習調査での「新聞を読んでいますか(「ほぼ毎日読んでいる」「週1~3回程度読んでいる」)」という質問に対する回答は、全国平均7.3%(さいたま市7.0%)と、年々数値が減少しています。その一方で、平日、スマホ等でゲームやSNS・動画視聴を1日1時間以上しているとの回答した生徒の割合は70%を超えているとの結果も出ています。今後も、読書や新聞離れが進んでいく可能性があると思っています。中学生世代は、将来に向けて自分の興味の有無にかかわらず様々な知識を得ていくのが好ましいと考えています。今は役に立たなくても、進路選択をしていく中で、いつかその知識が役に立つかもしれないからです。本校図書館でも、生徒の読書量を増やそうと、委員会活動を通し様々なイベントを実践しています。新聞についても、紙面をめくっていく中で、興味深い記事に出会う可能性があるかもしれません。変化の激しいこれからの時代を生きていく中学生を含む若い世代の人たちには、多くの知識(自分が必要としている情報以外のもの)に触れ、好奇心を高め、自分の可能性をどんどん増やして行ってほしいと思っています。差し当たって、校内に新聞記事を気軽に目にできるコーナーを作り、一人でも多く生徒に興味を持ってもらえるような取組を行っていこうと考えています。

ちなみに、先ほど話題にした朝日新聞の同日の記事に、『さくっと』『もふもふ』使う人5割超」との記事もありました。その記事の中で、「間髪を入れず(本来は「間、髪を入れず)」、「綺羅星のごとく(本来は「綺羅、星のごとく)」のように区切らず使ったり、「失笑する(本来は、こらえ切れずに噴き出して笑う)」「悪運が強い(本来は、悪い行いをしたのに、報いを受けずにいる様子)」を本来の意味とは違う使い方をしたりしている人が多いとの結果も掲載されていました。調査の担当者は、「本来の意味を尊重することは重要」としつつ、「言葉というのは時代とともに変化する。円滑なコミュニケーションが図られるようにしていくことが大事」とのコメントがありました。このような記事を通して、新たな知識を増やすことも楽しいと感じてもらえれば幸いです。

### かんたんテントを寄付していただきました！



本年度、開校45周年を記念して、本校同窓会から「かんたんテント」15張りを寄付していただきました。9月に入っても30度を超える気温が続く中、体育祭予行並びに体育祭当日にテントを使用することで、生徒の熱中症予防に大いに役立ちました。

今回の寄付に際し、同窓会長をはじめ、関係者の皆様の多大なるお心遣いに改めて感謝申し上げますとともに、今後も大切に使用させていただきます。誠にありがとうございました。